

実験の概要

自家用車に依存した生活の地方におけるMaaSモデルの確立を目指し、既存の交通モードと先行して実施しているデマンドサービスや自動運転をシームレスにつなぐアプリの提供、およびサービスを支える情報技術基盤を日立地域で実証する。

協議会の構成員

交通事業者
茨城交通
電鉄タクシー
みちのりHD

自治体
日立市
茨城県

民間事業者
常陽銀行
日立製作所

研究機関
茨城大学

連携協力先
ジョルダン

地域の交通課題

- ✓ 自家用車に依存する地方の共通の社会課題である人口減少に伴う利用者減少により、公共交通の維持が困難となり、利便性が低下することで益々縮小する負のスパイラルに陥っている。
- ✓ 特に日立地域では工場の移転による住民減少が先行して始まっており、その傾向が顕著に出ている。
- ✓ また市域が南北に長く、拠点が分散している地理的特性と高い自家用車利用率が相まって、激しい交通渋滞とそれに起因する公共交通の遅延が利便性の低下に拍車をかけている。
- ✓ こうした背景から既存公共交通だけの維持が困難となっており、広域での街づくりと連携した取り組みが求められている。

検証項目

- ✓ MaaSアプリと複数の利用シーンに合わせたデマンド型交通を提供し、**アプリのDL数や利用状況などをログデータから取得、分析する。**
- ✓ また**MaaS展開時の採算性**を検証するため、利用者の外出頻度の変化、公共交通非利用者の行動転換率をアンケートから推測する。
- ✓ また地域の視点から、MaaSアプリの検索データなどの利用側データと交通事業者側のデータを**集約・活用**することで、**市の都市計画などの政策立案への活用**を検証する。
- ✓ MaaSデータ統合時における**データフォーマットの規格**を検討する。

実験内容

日立地域内MaaSの実証概要

- 日立市内交通の統合MaaSアプリ提供
 - 日立市内の交通手段
 - 広域移動手段の統合
 - 外出促進クーポン配信
- デマンド交通の実証
 - 通勤型デマンド交通
 - ラストワンマイル型デマンド交通
 - 企業利用型デマンド交通
- MaaSデータ統合システム

①日立地域MaaSアプリ提供

対象交通	路線バス、BRT、鉄道、タクシー、高速バス、レンタサイクル(予定)
想定利用者	日立市／近郊エリア居住者と来訪者
利用料金	アプリは無料で配布
実施時期	2019年11月頃～（利便性・採算性を検証の上、来年度以降の実装を予定）

②デマンド型交通の実証

	①通勤型	②ラストワンマイル型	③企業利用型
エリア	東海、佐和、勝田エリア	大沼団地エリア周辺	日立地域内主要拠点
対象	日立地域内の事業所に通勤する社員	周辺居住者＋自動運転実証参加者	日立地域内の事業所に通勤する社員
時期	2019年11月～12月	2020年1月～2月	2019年11月～12月頃
料金	有償(予定)	無償	有償(予定)

③MaaSデータ統合システム

データ統合システム

- ✓ 関連データを一箇所に集約することでアプリ側でのデータ管理が容易になるとともに、**一元的にデータを把握できることで自治体の都市政策立案や交通事業者の運行計画策定に資するデータの提供。**